Recycled Paper

MITSUBISHI ELECTRIC

冷媒　R410A 対応

IT 装置用空調機
室内ユニット
形名
PADY-P200NM-E1

室外ユニット
形名
PVDY-P200NM-E1（標準仕様）
PVDY-P200NM-E1-BS（耐塩害仕様）
PVDY-P200NM-E1-BSG（耐重塩害仕様）

取扱説明書

もくじ　ページ

安全のために必ず守ること.....2
1. 各部の名称.....5
2. 運転のしかた.....7
3. 試運転.....19
4. お手入れのしかた.....21
5. サービスをお申しつけの前に.....24
6. 仕様.....31
7. 保証とアフターサービス.....33

冷媒回路内にほこり、ゴミ、水分等が混入しないよう、従来以上に冷媒配管工事に注意してください。

このたびは三菱電機パッケージエアコンをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
- ご使用の前に、正しく安全にお使いいただくため、必ずこの説明書をお読みください。
- お読みになったあとは、『据付説明書』とともに、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- 保証書は、『お買い上げ日・販売店名』などの記入をお確かめの上、大切に保管してください。
- お使いになる方が変わる場合、本書と『据付工事説明書』『保証書』をお渡しください。
- お客さまご自身では、据付け・移設をしないでください。（安全や機能の確保ができません。）

フロン排出抑制法　第一種特定製品

1）フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
2）この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。
3）冷媒の種類及びGWP（地球温暖化係数）は室内ユニットの定格銘板に記載されています。
　冷媒の数量は室内ユニットの機器設置状況銘板あるいは冷媒量記入ラベルに記載されています。
4）冷媒を追加充填した場合やサービスで冷媒を入れ替えた場合には室内ユニットの冷媒量
　記入ラベルに必要事項を必ず記入してください。

フロンの見える化

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り扱ってください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

⚠ 警告	取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度
⚠ 注意	取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- 図記号の意味は次のとおりです。

（一般禁止）

（接触禁止）

（水ぬれ禁止）

（ぬれ手禁止）

（一般注意）

（感電注意）

（高温注意）

（回転物注意）

（一般指示）

- お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

一般事項

⚠ 警告

当社指定の冷媒以外は絶対に封入しないこと。

- 使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災のおそれあり。
- 法令違反のおそれあり。

封入冷媒の種類は、機器付属の説明書・銘板に記載し指定しています。

指定冷媒以外を封入した場合、故障・誤作動などの不具合・事故に関して当社は一切責任を負いません。

禁止

吹出し風を身体に直接当てないこと。

- 吹出し風を身体に直接当てた場合、体調悪化や健康障害、食品劣化のおそれあり。

使用禁止

冷やし過ぎないこと。

- 冷やし過ぎた場合、体調悪化や健康障害、食品劣化のおそれあり。

使用禁止

特殊環境では、使用しないこと。

- 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。

使用禁止

吹き出しの風が直接あたる所に燃焼器具を置かないこと。

- 燃焼器具が不完全燃焼を起こし、酸素欠乏・一酸化炭素中毒のおそれあり。

使用禁止

安全装置・保護装置の改造や設定変更をしないこと。

- 圧力開閉器・温度開閉器などの保護装置を短絡して強制的に運転を行った場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。
- 設定値を変更して使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。
- 当社指定品以外のものを使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。

変更禁止

改造はしないこと。

- 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。

禁止

水・液体で洗わないこと。

- ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

水ぬれ禁止

電気部品に水をかけないこと。

- ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

水ぬれ禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

ぬれ手禁止

フィルター清浄・交換など高所作業時は足元に注意すること。

- 落下・転倒し、けがのおそれあり。

足元注意

掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。

- けが・感電のおそれあり。
- ファン・回転機器により、けがのおそれあり。

感電注意

運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。

- 冷媒は、循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。

やけど注意

換気をよくすること。

- 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
- 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。

換気を実行

換気をよくすること。

- 燃焼器具を使用した場合、不完全燃焼を起こし、酸素欠乏・一酸化炭素中毒のおそれあり。

換気を実行

ヒューズ交換の場合、指定容量のヒューズを使用すること。

- 指定容量外のヒューズ・針金・銅線を使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。

指示を実行

異常時（こげ臭いなど）や不具合が発生した場合、運転を停止して電源スイッチを切ること。

- お買い上げの販売店・お客様相談窓口に連絡すること。
- 異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。

指示を実行

基礎・据付台が傷んでいないか定期的に点検すること。

- ユニットの転倒・落下によるけがのおそれあり。

指示を実行

ユニットの廃棄は、専門業者に依頼すること。

- ユニット内に充てんした油や冷媒を取り除いて廃棄しないと、環境破壊・火災・爆発のおそれあり。

指示を実行

⚠注意

殺虫剤・可燃性スプレーなどを製品の近くに置いたり、直接吹付けないこと。

- 変形・引火・火災・爆発のおそれあり。

使用禁止

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- 回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- 高温部に触れると、火傷のおそれあり。

使用禁止

ユニットの上に乗ったり物を載せたりしないこと。

- ユニットの転倒や載せたものの落下によるけがのおそれあり。

使用禁止

食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しないこと。

- 保存品が品質低下するおそれあり。

使用禁止

吹き出しの風が直接あたる所に動植物を置かないこと。

- 悪影響のおそれあり。

使用禁止

運転停止後、すぐにユニットの電源を切らないこと。

- 運転停止から５分以上待つこと。
- ユニットが故障し、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。

禁止

ぬれて困るものを下に置かないこと。

- ユニットからの露落ちにより、ぬれるおそれあり。

据付禁止

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- けがのおそれあり。

接触禁止

水の入った容器を製品などの上に載せないこと。

- 水がこぼれた場合、ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

水ぬれ禁止

フィルターを取り外す場合、保護具を身につけること。

- ホコリが目に入り、けがのおそれあり。

ホコリ注意

保護具を身に付けて作業すること。

- 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- 高温部に触れると、火傷のおそれあり。

けが注意

空気の吹出口や吸込口に指や棒などを入れないこと。

- ファンによるけがのおそれあり。

回転物注意

フィルターの点検・清掃は専門業者がすること。

- けがのおそれあり。

指示を実行

販売店または専門業者が定期的に点検すること。

- ユニットの内部にゴミ・ほこりがたまった場合、ドレン排水経路が詰まり、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。
- においが発生するおそれあり。

指示を実行

配管工事をするときに

⚠ 注意

ドレントラップの封水をすること。

- 定期点検時に、トラップ内に注水し封水状態を確認すること。
- 不備がある場合、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。

指示を実行

移設・修理をするときに

⚠ 警告

改造はしないこと。ユニットの移設・分解・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。

禁止

お願い

運転を開始する 12 時間以上前に電源を入れてください。

- シーズン中は電源を切らないこと。故障のおそれあり。

ユニット内の冷媒は回収し、規定に従って廃棄してください。

- 法律（フロン排出抑制法）によって罰せられます。

ユニットの使用温度･湿度範囲を守ってください。

- 範囲外で使用した場合、故障のおそれあり。

吹出口・吸込口を塞がないでください。

- 風の流れを妨げた場合、能力低下・故障のおそれあり。

エアフィルターを外した状態で運転しないでください。

- ユニット内部にゴミが詰まり、故障のおそれあり。

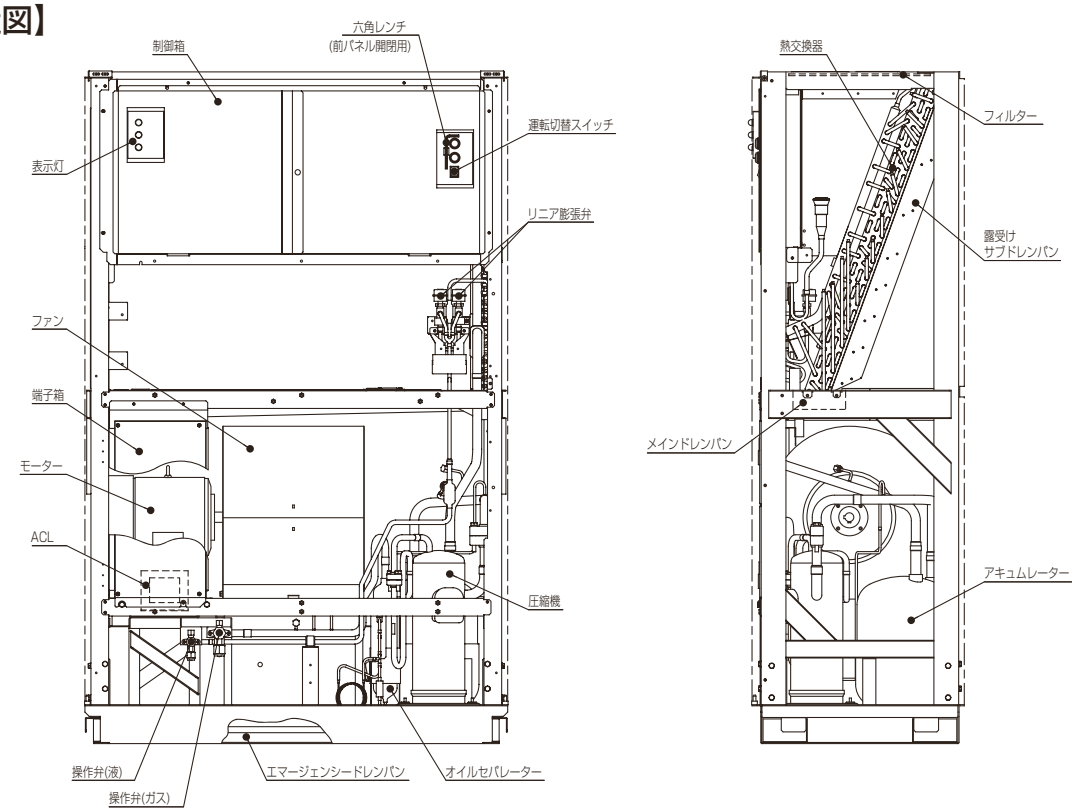
1. 各部の名称

1-1. 室内ユニット

PADY-P200NM-E1

【外観】

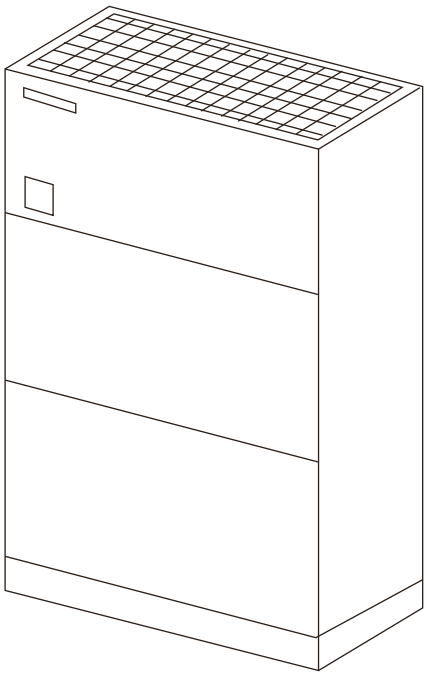
【内部構造図】



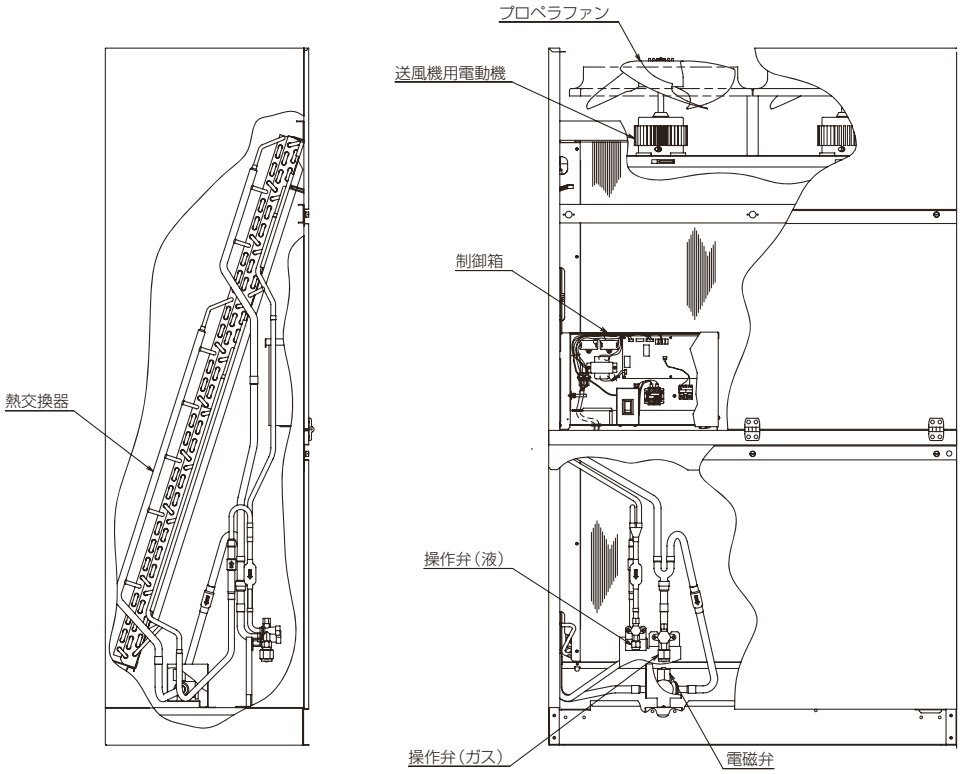
1-2. 室外ユニット

PVDY-P200NM-E1（-BS, -BSG）

【外観】



【内部構造図】



2. 運転のしかた

2-1. 試運転の前に

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

ぬれ手禁止

運転停止後、すぐにユニットの電源を切らないこと。

- 運転停止から５分以上待つこと。
- ユニットが故障し、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。

禁止

運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。

- 冷媒は、循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。

やけど注意

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- 回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- 高温部に触れると、火傷のおそれあり。

使用禁止

お願い:

エアフィルターを外した状態で運転しないでください。

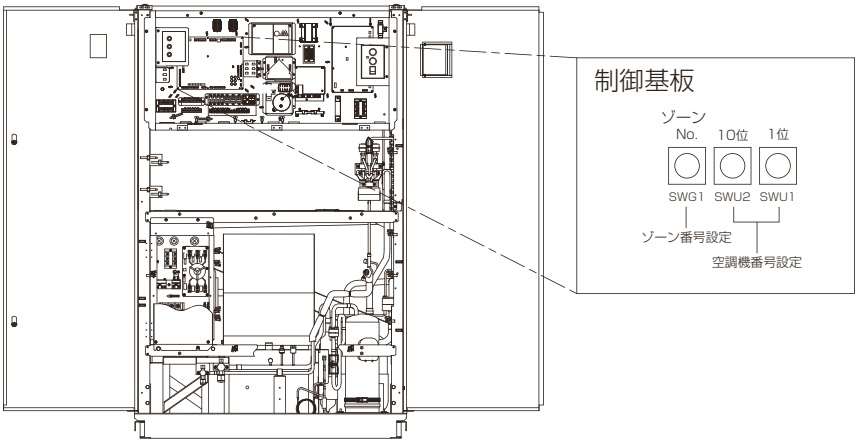
- ユニット内部にゴミが詰まり、故障のおそれあり。

■室内ユニットの初期設定

制御基板上のロータリースイッチにより、操作パネルまたはAGCUと通信を行うための空調機番号およびゾーン番号を設定します。

【注意】

スイッチを操作するときは、空調機の停止中に行ってください。運転状態では、設定内容が操作前と変わらず、正常に動作しません。



【空調機番号の設定】

空調機番号はSWU1とSWU2にて、１～20の範囲で設定します。

【ゾーン番号の設定】

ゾーン番号はSWG1にて１～５の範囲で設定します。

ゾーン番号	ゾーンNO. SWG1
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5

空調機番号	10位 SWU2	1位 SWU1
1	0	1
2	0	2
3	0	3
4	0	4
5	0	5
6	0	6
7	0	7
8	0	8
9	0	9
10	1	0
11	1	1
12	1	2
13	1	3
14	1	4
15	1	5
16	1	6
17	1	7
18	1	8
19	1	9
20	2	0

■室外ユニット確認

電源スイッチが入っているか確認ください。

■制御モードの設定

操作パネルにて、空調機の制御モードを設定します。設定できる項目には、温度の制御方法、室内風量制御方法、および室内温度と吹出温度の温度差の３つがあります。
各項目の設定は、操作パネルにて「特殊設定画面」の「2.温度制御設定」を選択してください。

(1)温度制御モード

「制御方法１」にて温度制御モードを選択します。選択できるモードは、下記のとおりです。
①吸込優先モード（スイコミユウセン）
②吹出優先モード（フキダシユウセン）

温度制御設定			▼ ▶
AC	制御方法1	制御方法2	風量
1	スイコミユウセン	サイテイフウリョウ	＊＊Hz
2	スイコミユウセン	コテイフウリョウ	＊＊Hz
3	フキダシユウセン	カヘンフウリョウ	＊＊Hz
4	スイコミユウセン	カヘンフウリョウ	＊＊Hz

※工場出荷時は、吸込優先モードに設定しています。

(2)風量制御モード

「制御方法２」にて風量制御モードを選択します。選択できるモードは、下記のとおりです。
①可変風量（カヘンフウリョウ）
②固定風量（コテイフウリョウ）
③最低風量（サイテイフウリョウ）…風量範囲の下限値を設定する運転モードです。

温度制御設定			▼ ◀ ▶
AC	制御方法1	制御方法2	風量
1	スイコミユウセン	サイテイフウリョウ	＊＊Hz
2	スイコミユウセン	コテイフウリョウ	＊＊Hz
3	フキダシユウセン	カヘンフウリョウ	＊＊Hz
4	スイコミユウセン	カヘンフウリョウ	＊＊Hz

※工場出荷時は、可変風量に設定しています。

【注意】

風量制御モードを最低風量（サイテイフウリョウ）に設定した場合は、「風量」にて設定周波数の設定を行ってください。（31Hz～66Hz）

(3)温度差の設定

「温度差」にて室内温度と吹出温度の温度差を設定します。
選択できる範囲は５～10℃です。

温度制御設定			▲▼◀
AC	温度差		
5	＊＊＊.＊ ℃		
6	＊＊＊.＊ ℃		
7	＊＊＊.＊ ℃		
8	＊＊＊.＊ ℃		

※工場出荷時は、８℃に設定しています。

(4)機外静圧の設定

「機外静圧」にて室内ユニットの機外静圧を設定します。

設定できる範囲は60Pa～300Pa（60Pa刻み）です。

機外静圧設定			▲▼◀
AC	機外静圧		
5	＊＊＊.＊　Pa		
6	＊＊＊.＊　Pa		
7	＊＊＊.＊　Pa		
8	＊＊＊.＊　Pa		

※工場出荷時は、120Paに設定しています。

■詳細設定

操作パネルにて、前頁以外の空調機の制御モード等を設定します。

各項目の設定は、操作パネルにて「特殊設定画面」の「6.詳細設定」にて、それぞれの項目を選択してください。

(1)除湿制御の設定

「除湿制御設定変更」にて「有効無効」、「下限風量」、「吹出下限設定」を選択します。

選択できるモードは下記のとおりです。

「有効無効」では、①有効（ユウコウ）、②無効（ムコウ）

「下限風量」では、①最大（サイダイ）、②中間（チュウカン）、③最低（サイテイ）

「吹出下限設定」では、設定できる範囲は12～15℃です。工場出荷時は12℃に設定しています。

[除湿制御設定変更　]			□□□□□□□□□ □□□□□▼◀□
ＡＣ	有効無効	下限風量	吹出下限設定
1	ユウコウ	サイダイ	１２℃
2	ユウコウ	チュウカン	１３℃
3			
4	ムコウ	サイテイ	１５℃

(2)無除湿制御の設定

「無除湿制御設定変更」にて「有効無効」を選択します。

選択できるモードは下記のとおりです。

①有効（ユウコウ）、②無効（ムコウ）

[無除湿制御設定変更]			□□□□□□□□□ □□□□□▼□□
ＡＣ	有効無効	開始条件Ａ	終了条件Ｂ
1	ユウコウ	＊＊.＊℃	＊＊.＊℃
2	ユウコウ	＊＊.＊℃	＊＊.＊℃
3			
4	ムコウ	＊＊.＊℃	＊＊.＊℃

設定変更については、弊社までお問い合わせください。

(3)加湿器連動制御の設定

「加湿器連動設定変更」にて「加湿器連動」を選択します。

選択できるモードは下記のとおりです。

①有効（ユウコウ）、②無効（ムコウ）

[加湿器連動設定変更]			
AC	加湿器連動		
1	ユウコウ		
2	ユウコウ		
3			
4	ムコウ		

(4)多点温度制御の設定

バージョンの確認方法については、制御盤に同梱の「IT装置用空調制御盤　取扱説明書」または「IT装置用空調機専用コントローラ取扱説明書」をご参照ください。

〈操作パネルがVer.02.0302以下の場合〉

「多点温度制御設定」にて「多点制御」、「室内設定温1～3」、「吹出設定温1～3」を選択します。

選択できるモード、範囲は下記のとおりです。

「多点制御」では、①ON1、②ON2、③OFF

「室温設定温1～3」では、20～40℃（20℃未満となっている場合は＊20.0℃と表示）

「吹出設定温1～3」では、15～35℃（15℃未満となっている場合は＊15.0℃と表示）

※一部の多点温度センサーを無効とする場合は、0℃を設定してください。

[多点温度制御設定　]			
AC	多点制御		
1	ON1		
2	ON2		
3			
4	OFF		

[多点温度制御設定　]			
AC	室内設定温１	室内設定温２	室内設定温３
1	＊20.0℃	＊20.0℃	＊20.0℃
2	21.0℃	21.0℃	21.0℃
3			
4	23.0℃	23.0℃	0.0℃

[多点温度制御設定　]			
AC	吹出設定温１	吹出設定温２	吹出設定温３
1	＊15.0℃	＊15.0℃	＊15.0℃
2	15.0℃	15.0℃	15.0℃
3			
4	18.0℃	18.0℃	0.0℃

〈操作パネルがVer.02.0310以上の場合〉

「多点温度制御設定」にて「多点制御」、「多点設定温1～6」を選択します。

選択できるモード、範囲は下記のとおりです。

「多点制御」では、①ON1、②ON2、③OFF

「多点設定温1～6」（制御方法1が吸込み優先モードのとき）では、20～40℃（20℃未満となっている場合は＊20.0℃と表示）室内設定温をあらわします。

「多点設定温1～6」（制御方法1が吹出し優先モードのとき）では、15～35℃（15℃未満となっている場合は＊15.0℃と表示）吹出設定温をあらわします。

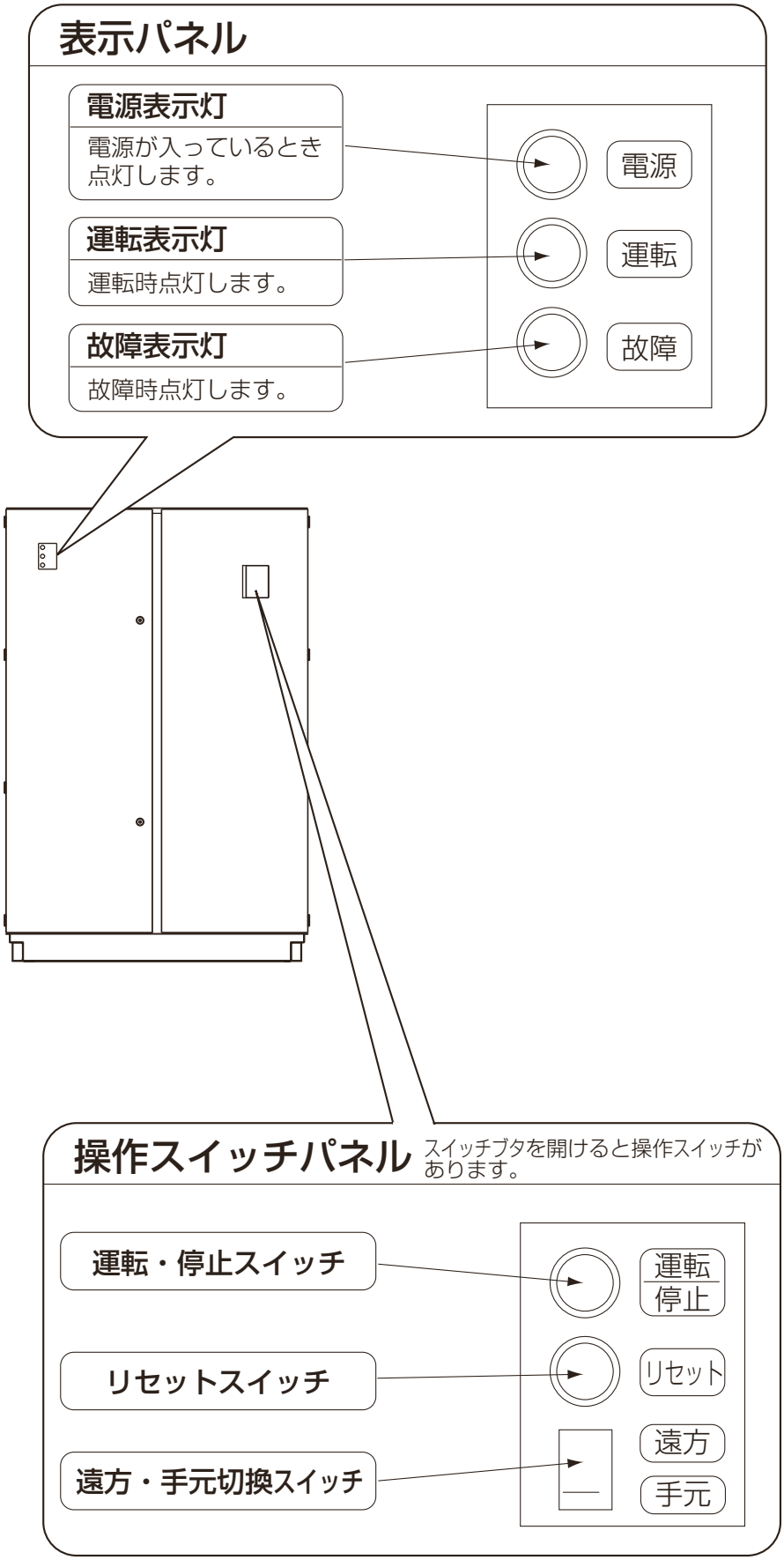
※一部の多点温度センサーを無効とする場合は、0℃を設定してください。

［多点温度制御設定　］			
AC	多点制御		
1	ON1		
2	ON2		
3			
4	OFF		

［多点温度制御設定　］			
AC	多点設定温１	多点設定温２	多点設定温３
1	＊15.0℃	＊15.0℃	＊15.0℃
2	21.0℃	21.0℃	21.0℃
3			
4	23.0℃	23.0℃	0.0℃

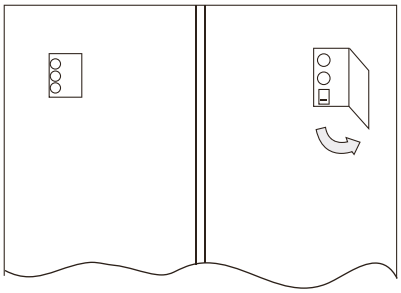
［多点温度制御設定　］			
AC	多点設定温４	多点設定温５	多点設定温６
1	＊15.0℃	＊15.0℃	＊15.0℃
2	15.0℃	15.0℃	15.0℃
3			
4	18.0℃	18.0℃	0.0℃

2-2. 操作部の名称とはたらき

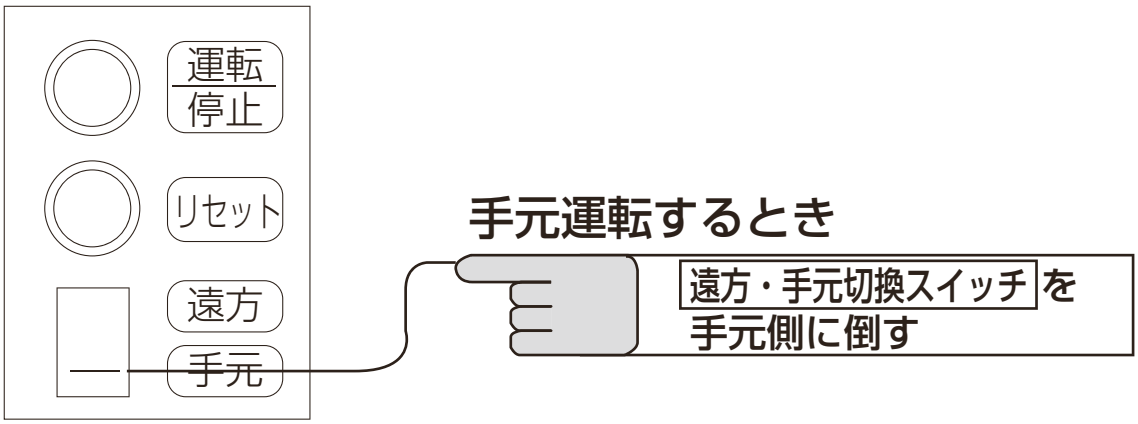


2-3. 手元運転のしかた

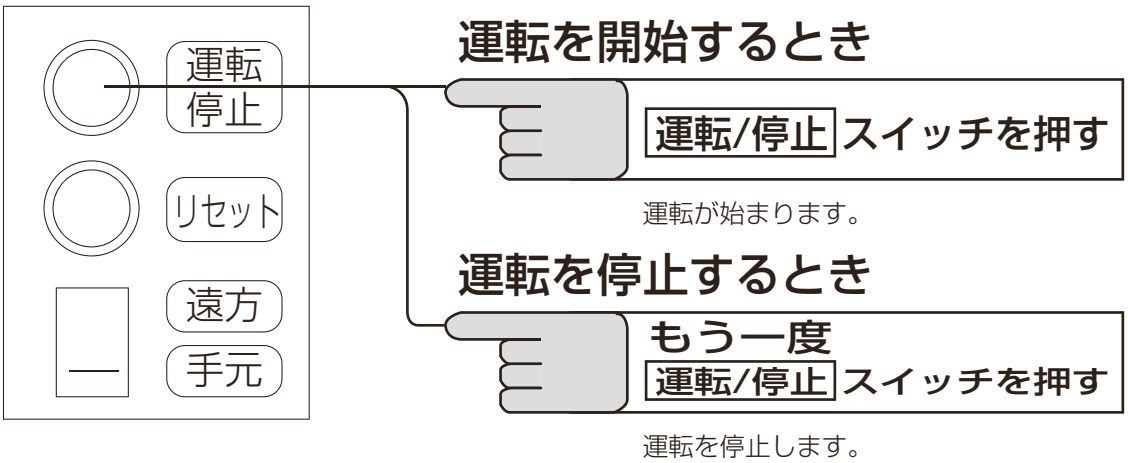
1 操作スイッチのフタを開けます。



2 遠方・手元切換



3 運転開始・停止



お願い

- 運転・停止以外の操作（温度設定等）は本ユニットからはできません。空調制御盤の操作パネルから行ってください。
- 運転を停止するとき、遠方モードでは停止できません。手元モードに切換えてから、運転・停止スイッチを押してください。

2-4. 機能説明

■室内風量設定

モード	内　容	運転中の風量
通常風量	初期設定のモード	31～66Hz可変風量（52～112m³/min）
最低風量確保	設定により最低周波数を変更可能	設定周波数～66Hz可変風量（設定風量～112m³/min）
最大風量固定	設定により固定	機外静圧の違いにより、56～66Hzのいずれかに固定（112m³/min）

室内ファン周波数は、通常31～66Hzまで変化します。
室内機外静圧により、若干周波数が異なります。
ただし、保護制御のため運転中の風量が変化することがあります。
モードの変更方法は、空調制御盤取扱説明書を参照してください。

■空気温度制御方法

モード	内　容
吸込優先	冷媒回路の高圧（凝縮温度）、低圧（蒸発温度）目標に近づけるように圧縮機周波数、室内送風機風量、室外送風機風量を変化させることにより、空気温度の制御を行う。
吹出優先	

圧縮機周波数は、通常20Hz～57Hzまで変化します。
室内送風機風量は52～112m³/minで変化します。
室外送風機風量は43～102m³/minで変化します。
モードの変更方法は、空調制御盤取扱説明書を参照してください。

■モード変更による制御方法

		圧縮機周波数	室内送風機風量	室外送風機風量
通常風量	吸込優先	20～57Hzで変化	52～112m³/minで変化	43～102m³/minで変化
	吹出優先			
最低風量確保	吸込優先	20～57Hzで変化	設定風量～112m³/minで変化	43～102m³/minで変化
	吹出優先			
最大風量固定	吸込優先	モードなし		
	吹出優先	20～57Hzで変化	112m³/minで固定	43～102m³/minで変化

■機外静圧設定

現地の室内機外静圧に合わせて、設定を変更してください。
機外静圧は、60～300Paの範囲で60Pa刻みで設定可能です。
室内送風機風量は、全ての機外静圧設定においても「室内風量設定」のとおりになります。
ただし、設定を誤ると風量範囲が変化しますので正しく設定してください。
モードの変更方法は、空調制御盤取扱説明書を参照してください。

■除湿制御

外部からの除湿制御信号（空調機のTB9または制御盤（基本ユニット）TB6の接点ポート接続）かつ操作パネルの設定により、除湿を行います。
除湿制御中は、空気温度制御の設定によらず「吹出優先」となります。
制御中の下限風量や吹出温度の下限値を設定することができます。
設定方法は、空調制御盤取扱説明書を参照してください。

■無除湿制御

操作パネルにより、制御の有効無効を切替えます。
温湿度センサー（現地手配）によりできるだけ除湿を行わない制御をします。
無除湿制御中は、吸込温度（吹出温度）が、設定温度まで下がらないことがあります。
設定方法は、空調制御盤取扱説明書を参照してください。

■加湿器連動制御

外部からの加湿器連動制御信号（空調機のTB9または制御盤（基本ユニット）TB6の接点ポート接続）かつ操作パネルの設定により、加湿器を使用している場合に、できるだけ除湿を行わない制御をします。
加湿器連動制御中は、室内送風機風量は最大風量となります。
設定方法は、空調制御盤取扱説明書を参照してください。

■室外機低騒音運転制御、室外機極低騒音運転制御

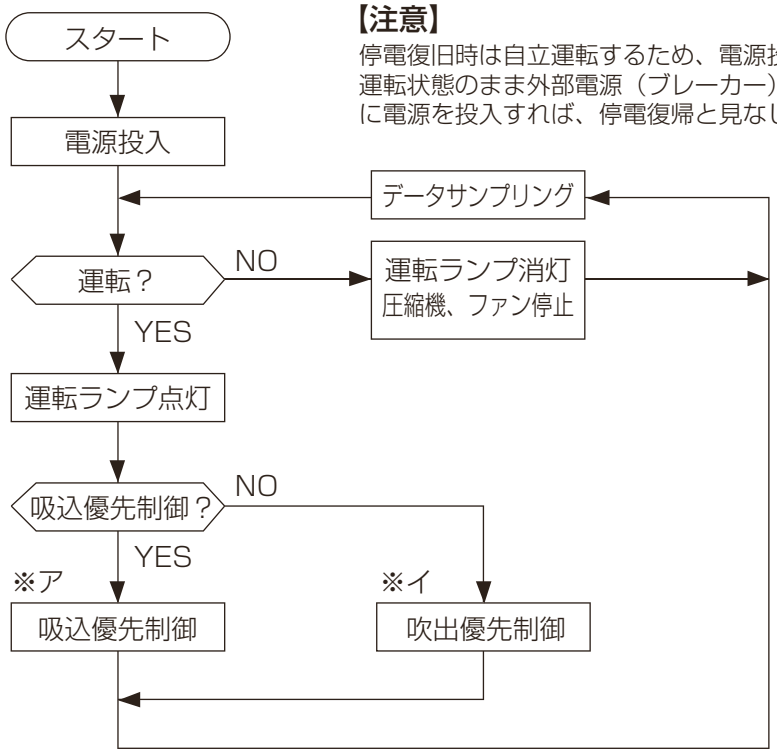
外部からの室外機低騒音運転制御信号、または室外機極低騒音運転制御信号（空調機のTB9の接点ポート接続）により、室外機送風機の回転数をあらかじめ定めた制御値以下となるよう抑制した状態で運転を行います。
ただし、能力不足の場合、バックアップ制御に入る場合は、室外機低騒音運転制御、室外機極低騒音運転制御から抜け通常制御へ移行します。
※室外機低騒音運転制御信号と室外機極低騒音運転制御信号を同時にいれないでください。

■多点温度制御

操作パネルにより、制御の有効無効を切替えます。
空調機内の温度センサーと、機外に設置された多点温度制御用温度センサー（別売）の計測値によって、空調機を制御します。
多点温度制御用温度センサーは、室温と吹出温度とを計測するために、空調機1台に対してそれぞれ室温、吹出温度センサーのいずれか6点まで接続することができます。
それぞれのセンサー個別に設定値を設定することができます。
設定方法は空調制御盤取扱説明書を参照してください。
多点温度制御の概要を下表に示します。

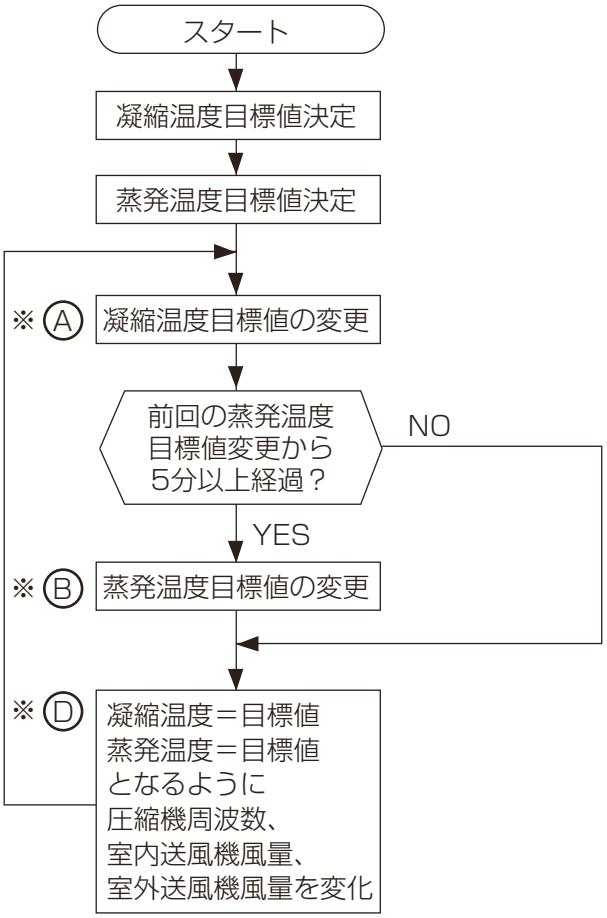
モード	内　容
吸込優先	＜制御モード①＞ 室温を計測するセンサー各々の計測値と各々の設定値との差を演算し、 差が大きくなるセンサーを使用して制御します。 （計測値－設定値＞0のセンサーを使用して制御する）
	＜制御モード②＞ 室温を計測するセンサー各々の計測値と各々の設定値との差の絶対値を演算し、 最も大きくなるセンサーを使用して制御します。 （計測値－設定値＞0、計測値－設定値＜0のセンサーを使用して制御する）
吹出優先	＜制御モード①＞ 吹出温度を計測するセンサー各々の計測値と各々の設定値との差を演算し、 差が大きくなるセンサーを使用して制御します。 （計測値－設定値＞0のセンサーを使用して制御する）
	＜制御モード②＞ 吹出温度を計測するセンサー各々の計測値と各々の設定値との差の絶対値を演算し、 最も大きくなるセンサーを使用して制御します。 （計測値－設定値＞0、計測値－設定値＜0のセンサーを使用して制御する）

■運転フローチャート（通常制御）

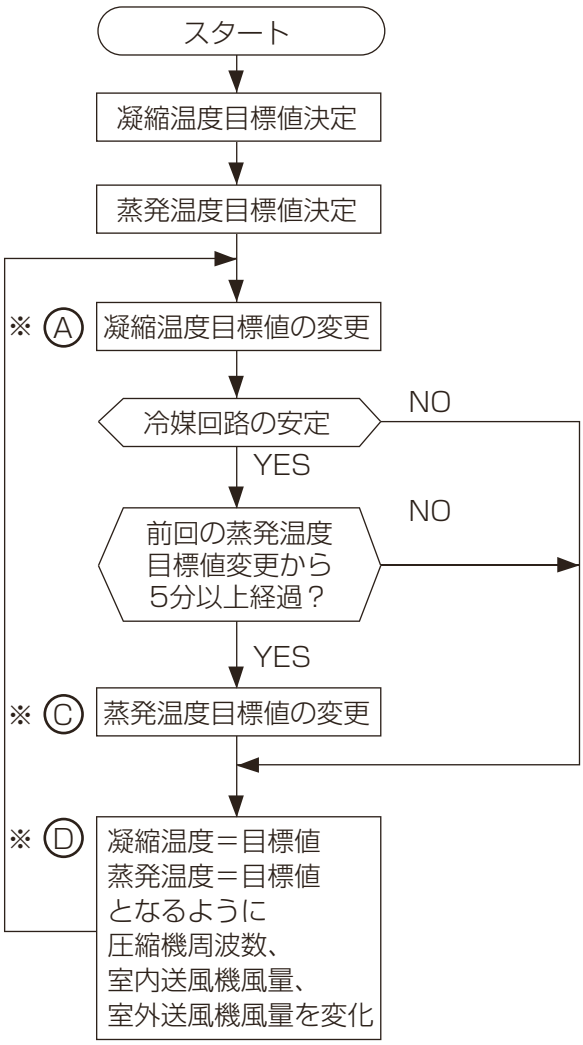


【注意】
停電復旧時は自立運転するため、電源投入時ご注意ください。
運転状態のまま外部電源（ブレーカー）をOFFした場合、次に電源を投入すれば、停電復帰と見なし運転を開始します。

※ア．吸込空気温度制御 20秒毎に以下の制御を行います。



※イ．吹出空気温度制御 20秒毎に以下の制御を行います。



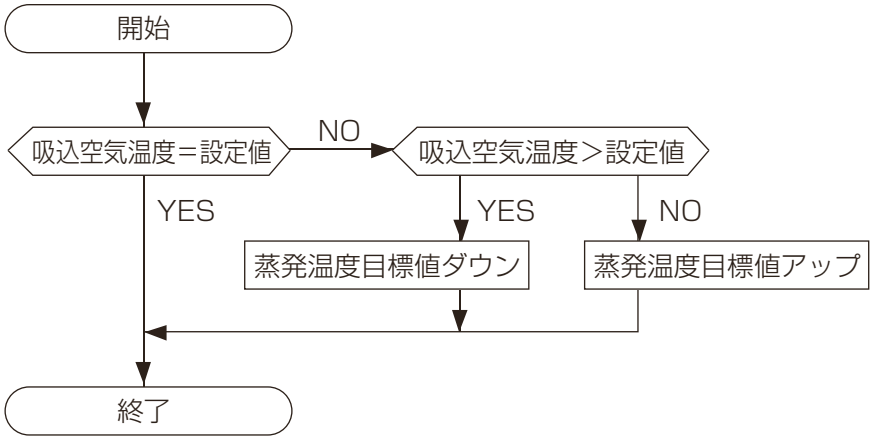
※Ⓐ～Ⓓ は、次頁を参照してください。

Ⓐ 凝縮温度目標値の変更

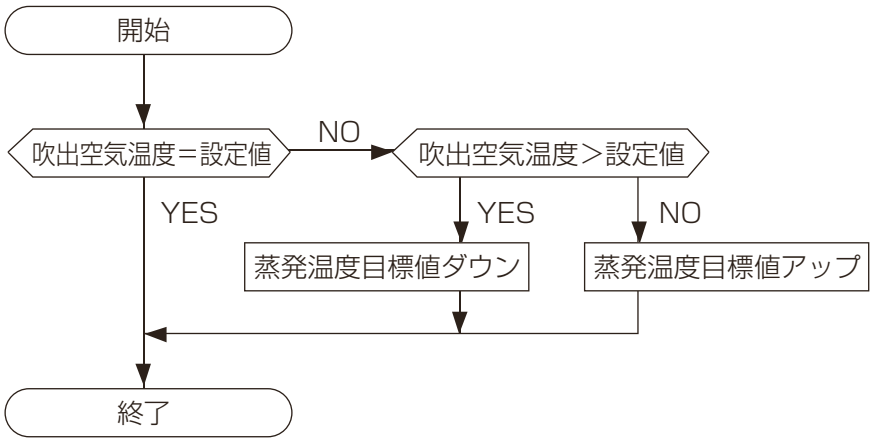
室外気温から目標値を決定します。

凝縮温度の目標値＝室外気温＋10℃
ただし25℃≦凝縮温度の目標値≦50℃

Ⓑ 蒸発温度目標値の変更（吸込空気温度制御）



Ⓒ 蒸発温度目標値の変更（吹出空気温度制御）



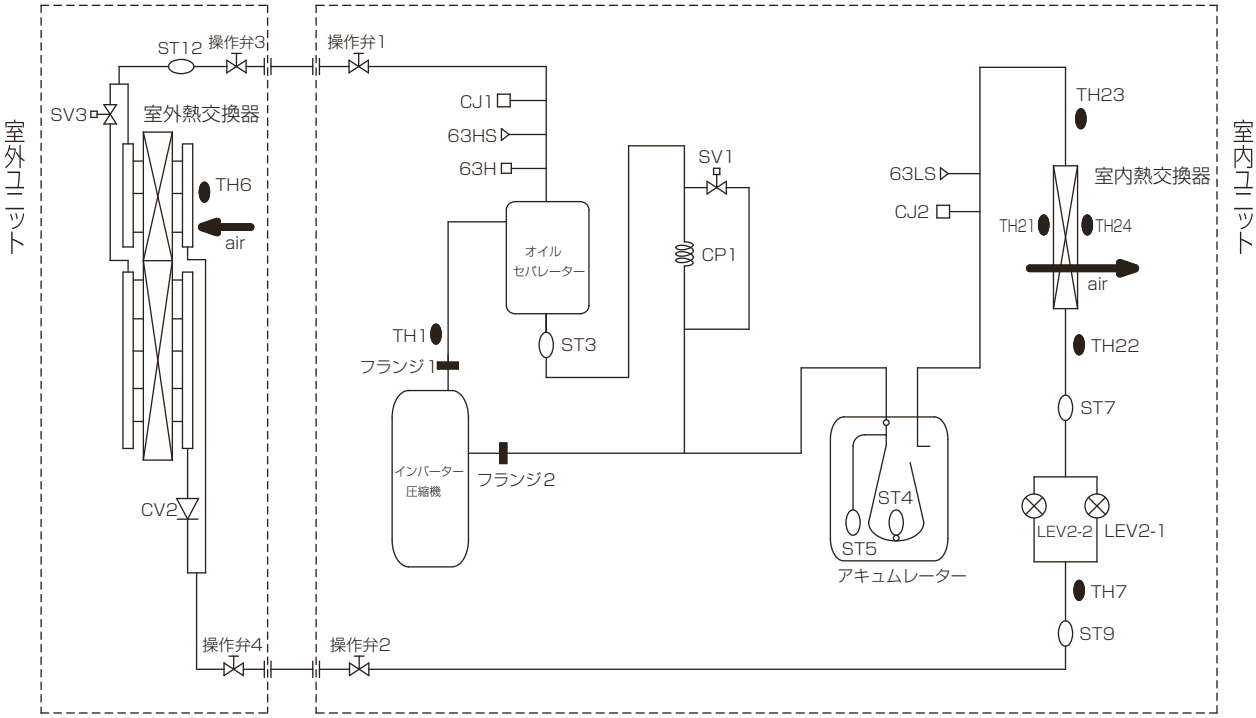
Ⓓ 圧縮機周波数、室内送風機風量、室外送風機風量制御

凝縮温度＝目標値
蒸発温度＝目標値
となるよう下表(目安)の制御を行います。

	圧縮機周波数	室内送風機風量	室外送風機風量
凝縮温度＞目標値	ダウン	ダウン	アップ
凝縮温度＝目標値	現状維持	現状維持	現状維持
凝縮温度＜目標値	アップ	アップ	ダウン
蒸発温度＞目標値	アップ	ダウン	アップ
蒸発温度＝目標値	現状維持	現状維持	現状維持
蒸発温度＜目標値	ダウン	アップ	ダウン

●凝縮温度と蒸発温度の判定による制御方向が逆の場合、蒸発温度側の判定を優先します。
●プルダウンおよび過剰能力時は、室内送風機風量は上表と異なる制御を行う場合があります。

■冷媒系統の機能説明



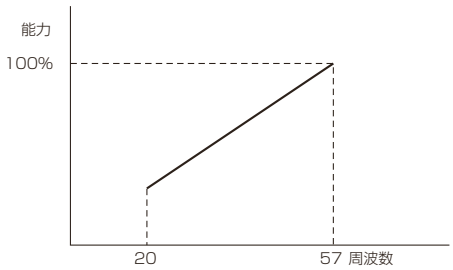
記号	名称	記号	名称	記号	名称	記号	名称
63H	圧力開閉器	CJ	チェックジョイント	LEV	電子膨張弁	TH	サーミスター
63HS	高圧圧力センサー	SV	電磁弁	CP	キャピラリーチューブ		
63LS	低圧圧力センサー	CV	逆止弁	ST	ストレーナー		

【室内ユニット】

●圧縮機 ……インバータ駆動により、20Hz～57Hz運転が可能なスクロール圧縮機。
●LEV2-1,2-2（電子膨張弁） …過熱度制御を行う、パルス駆動リニア制御弁。（停止時は全閉）
●63LS（低圧圧力センサ） ……吸入圧力を検知し、吸入圧力低下時の保護制御および、冷房能力の計算に使用する。
●63HS（高圧圧力センサ） ……吸出圧力を検知し、吐出圧力上昇時の保護制御と冷房能力の計算に使用する。
●63H（高圧圧力開閉器） ……4MPa以上になると異常を検知し、運転を停止させる。

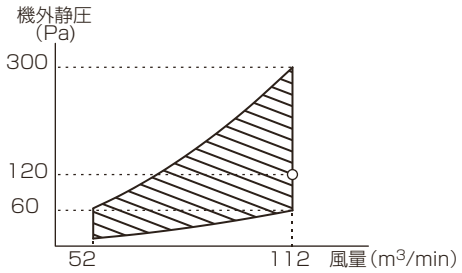
■圧縮機の容量制御

インバーター圧縮機を20Hz～57Hzで制御します。
制御ステップは1Hz毎です。



■室内ファンの容量制御

インバーター制御により、室内ファンを31～66Hzの間で風量制御します。（下図の斜線部分）
機外静圧の違いにより、インバーター制御テーブルを変更します。



○印は定格ポイントを示します。

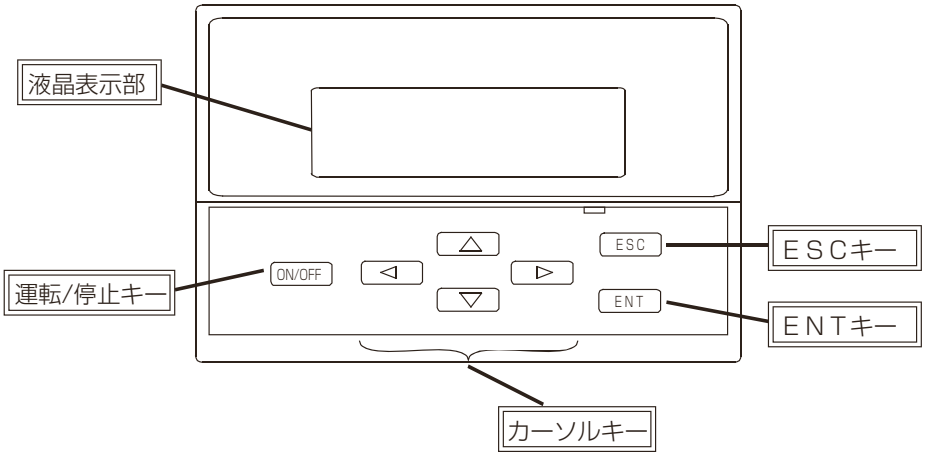
112m³/min時の機外静圧	周波数の制御範囲
300Pa	39～66Hz
240Pa	37～64Hz
180Pa	35～62Hz
120Pa	33～59Hz
60Pa	31～56Hz

3. 試運転

3-1. 試運転前の確認事項

●冷媒漏れ、電源、伝送線にゆるみがないことを確認します。
●電源端子台と大地間を500Vメガーで計って、1.0MΩ以上あることを確認します。
・絶縁抵抗が、1.0MΩ以下の場合は運転しないでください。
・伝送線用端子台にはメグチェックは絶対にかけないでください。制御基板が破損します。
・据付け直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合には、圧縮機内に冷媒が溜まることにより、電源端子台と大地間の絶縁抵抗が、1.0MΩ近くまで低下することがあります。
・絶縁抵抗が1.0MΩ以上ある場合は、元電源を入れてクランクケースヒーターを12時間以上通電することにより、圧縮機内の冷媒が蒸発するので絶縁抵抗は上昇します。
●ガス側と液側のボールバルブがともに全開になっていることを確認します。
・キャップは必ず締めてください。
●三相電源の相順と各相間電圧を確認してください。
・欠相または逆相の場合は、試運転時異常停止（4102or4103エラー）となります。
●試運転の最低12時間以上前に元電源を入れて、クランクケースヒーターに通電します。
・通電時間が短いと圧縮機故障の原因となります。

3-2. 試運転方法



		操作手順	動作（注意事項）
試運転準備	1	12時間以上前に、元電源を入れる	約3分間で立ち上げ処理完了 数分後リモコン画面暗くなる
	2	液晶コントロールパネルのいずれかのキーを押す	リモコン画面明るくなる 「メインメニュー」画面となる
	3	「メインメニュー」の画面で ◁ と ▷ と ENT のキーを同時に押す	「試運転」画面となる
	4	「試運転」の画面でカーソルを移動させて、「1.設定値変更」を選定し、ENT 押す	「設定値変更」画面となる
	5	カーソルを移動させ、試運転を行う。 空調機の号機の試運転モードの部分を選定し、ENT を押す。	選択した部分が点滅する
	6	△ と ▽ を使って「AUTO」表示を「TEST」表示に切換え、ENT を押す。	試運転モードとなる
設定	7	**圧縮機周波数設定** 6の操作完了後、カーソルキーで試運転を行う空調機の号機の圧縮機の部分を選定し、ENT を押す。 △ ▽ を使って、圧縮機周波数を表示させ、ENT を押す。	選択した部分が点滅する 圧縮機周波数が設定される （※ここでは57Hzに設定する）
	8	**室内ファン周波数設定** 7と同様に室内ファン周波数を設定する。	室内ファン周波数が設定される ※ここでは以下の周波数に設定する。 機外静圧設定（Pa）／周波数（Hz） 60／56 120／59 180／62 240／64 300／66
	9	**室外ファン風量設定** 7、8と同様に室外ファン風量を設定する。	室外ファン風量が設定される （※ここでは100%に設定する）
	10	**試運転実施** カーソルキーで運転／停止の部分を選定し、ENT を押す。次に ON／OFF を押し、「ON」表示に切換え ENT を押す。	運転開始 （気温条件等の制約がかかると圧縮機・室内ファン・室外ファンは設定値にならない場合があります。）
確認	11	冷房運転が行われていることを確認する。	（冷媒回路の安定には15～20分程度かかります。）
試運転終了	12	**試運転終了** カーソルキーで運転／停止の部分を選定し、ENT を押す。次に ON／OFF を押し、「OFF」表示に切換え ENT を押す。	運転終了
	13	カーソルを移動させ、試運転を行う空調機の号機の試運転モードの部分を選定し、ENT を押す。 △ ▽ を使って、「TEST」表示を「AUTO」に切換え、ENT を押す。	試運転モード終了
	14	試運転モードが「AUTO」に切換わっていることを確認して、ESC を押し、試運転画面にもどり、カーソルキーで「メインメニュー」を選定し、ENT を押す。	「メインメニュー」にもどる 試運転終了

4. お手入れのしかた

お手入れの前に、必ず元電源を「切」にしてください。

掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。

- けが・感電のおそれあり。
- ファン・回転機器により、けがのおそれあり。

感電注意

■室内ユニットのお手入れ

●室内ユニットには、吸込空気のゴミを取るためのエアフィルターがあります。下図を参照して、フィルターを清掃してください。（エアフィルターは3ヶ月に一度は点検し、清掃してください。）

【エアフィルターの外しかた】

フィルター清浄・交換など高所作業時は足元に注意すること。

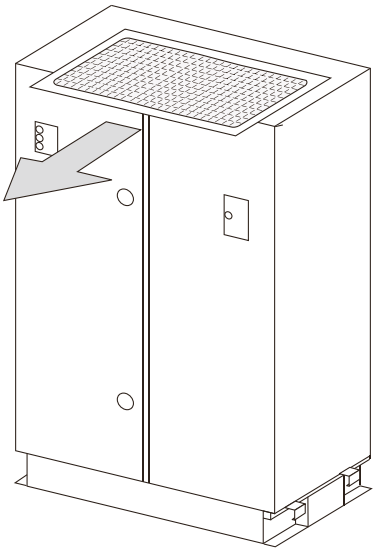
- 落下・転倒し、けがのおそれあり。

足元注意

フィルターを取り外す場合、保護具を身につけること。

- ホコリが目に入り、けがのおそれあり。

ホコリ注意



【清掃のしかた】

殺虫剤・可燃性スプレーなどを製品の近くに置いたり、直接吹付けないこと。

- 変形・引火・火災・爆発のおそれあり。

使用禁止

水・液体で洗わないこと。

- ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

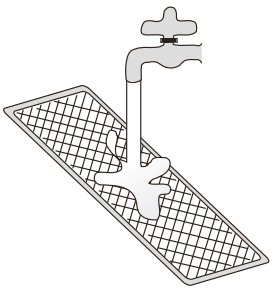
水ぬれ禁止

お願い:

50 ℃以上のお湯で洗わないでください。
・変形のおそれあり。

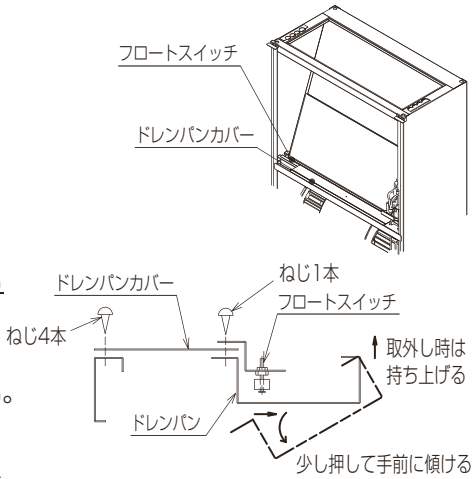
直射日光、または火に当てて乾かさないでください。
・変色・変形のおそれあり。

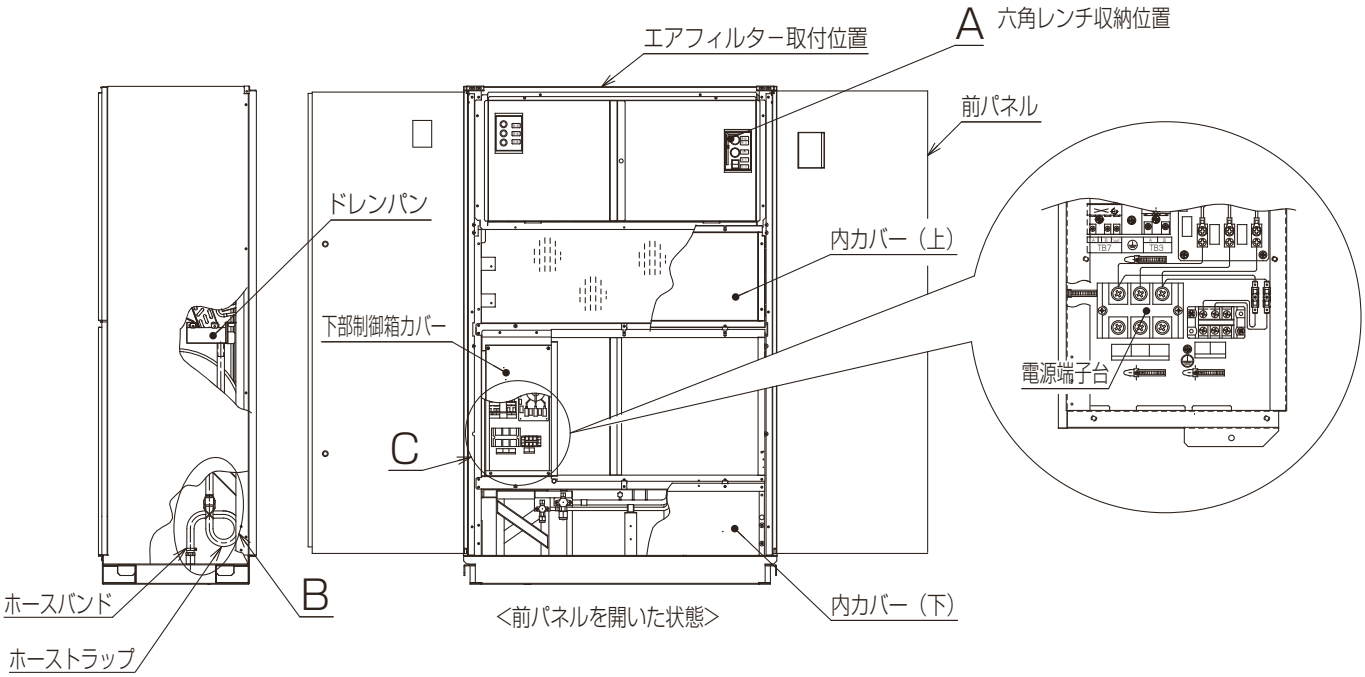
●中性洗剤を溶かしたぬるま湯か水でゆすぎ洗いし、その後洗剤をよく洗い落としてください。洗ったあとは、乾燥させてから元どおりに取付けてください。



【ドレンパンの清掃のしかた】

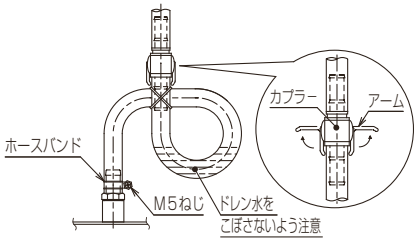
①六角レンチにて前パネルの鍵を開け扉を開けてください。
　六角レンチは前パネル スイッチ部に収納しています。【図A部】
②内カバー（上）を外してください。（ねじ6本）
③フロートスイッチとドレンパンカバーを取外し（ねじ1本＋4本）
　ドレンパンを手前に傾けてください。【右図】
④ドレンパンやドレン出口に付着しているホコリやゴミを取除き、ぬれた布などで拭いてください。このとき、板金エッジ等で手を切らないように注意してください。
⑤作業終了後、傾きを元に戻し、フロートスイッチ・ドレンパンカバーを元どおり取付け、内カバー（上）および前パネルを閉めてください。
※ドレンパンの汚れが酷い場合（奥まで汚れている場合）は、ドレンホースを外し（次頁）ドレンパンを傾けた状態（上記③）で奥側を上方に持ち上げ、ドレンパンを下ろし全面を清掃してください。





【ドレンホースの清掃のしかた】

①前ページ【ドレンパンの清掃のしかた】の①と同じ手順で、前パネルを開いてください。
②内カバー（下）を外してください。（ねじ3本）
③ホースバンドのネジをゆるめて、ホースを台枠側から抜き、その後カプラーを外してください。【図B部及び右図】
カプラーは右図に示すようにアーム（2本）を上へ持ち上げると簡単に外せます。このとき、ホーストラップにたまったドレンをユニット外へこぼさないよう注意してください。
④ドレンホースを清掃してください。
⑤ドレンホースを元どおり取付けてください。
取付け方は③と逆に、カプラーを差込んだ後、アームを下げてください。
取付け後、メインドレンパンから注水し、トラップ内に封水してください。
⑥作業終了後、内カバー（下）および前パネルを閉めてください。



【メガーチェックのしかた】

①電源を切ってから端子箱内コンデンサが放電するまで5分程度待ちます。
②前ページ【ドレンパンの清掃のしかた】の①と同じ手順で、前パネルを開いてください。
③つまみネジを外し、端子箱カバーを開いてください。
④電源端子台の絶縁（※）を測定してください。【 図C部】…RST共に測定してください。
※電源端子台と大地間をDC500メガーで計って1.0MΩ以上であることを確認してください。
⑤作業終了後、端子箱カバーおよび前パネルを閉めてください。

【ドレン排水の点検】

ドレン排水はスムーズに流れているか調べてください。排水不良の場合は紙粉などでドレンパンの溝部分および配水管のトラップ部がつまっていないか調べてください。
なお、ドレンパン溝部分および配水管のトラップ部は詰まらないようにこまめに清掃してください。
トラップは、必ず封水された状態を保持してください。（定期点検で必ず確認してください）

■室外ユニットのお手入れ

電気部品に水をかけないこと。

- ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

水ぬれ禁止

●清掃時は必ず室外ユニットの電源を遮断し、作業を行ってください。

5. サービスをお申しつけの前に

■故障画面表示の確認

故障発生時、液晶コントロールパネルは故障画面に遷移します。
下表を参照して表示されている異常コード、チェックポイントを確認してください。
故障画面の詳細については、空調制御盤の取扱説明書「5.液晶コントロールパネル操作方法」を参照してください。

【異常コード一覧（空調機）】

コード	空調機故障	故障画面表示	遠隔リセット可否
0403	シリアル通信異常ＩＰＭ通信	通信異常	○
1102	吐出温度異常	吐出管温度異常	×
1302	高圧圧力異常	高圧圧力異常	×
1500	冷媒過充てんアキュムレーターオーバーフロー	冷媒不足・過多	×
2500	漏水異常フロートスイッチ作動	ドレンパン水位異常	×
4102	欠相異常	欠相異常	×
4103	逆相異常	逆相異常	×
4114	室内ファンコントローラー異常	送風機故障	○
4115	電源周波数異常	電源周波数異常	×
4116	室内ファンインナーサーモ異常	送風機故障	×
4220	インバータ母線電圧低下異常	圧縮機インバーター異常	○
4240	インバーター過負荷保護	圧縮機インバーター異常	○
4250	ＩＰＭ異常一括ＩＰＭ/母線電圧異常	圧縮機インバーター異常	○
5101	吐出温度センサー異常ＴＨ1	センサーエラー	○
5106	外気温度センサー異常ＴＨ6	センサーエラー	○
5107	LEV前液管温度センサー異常ＴＨ7	センサーエラー	○
5121	室内吸込空気温度センサー異常ＴＨ21	センサーエラー	○
5122	室内熱交入口液温度センサー異常ＴＨ22	センサーエラー	○
5123	室内熱交出口ガス管温度センサー異常ＴＨ23	センサーエラー	○
5124	室内吹出空気温度センサー異常ＴＨ24	センサーエラー	○
5142	温湿度センサー2異常TH42	センサーエラー	○
5144	温湿度センサー1異常TH41	センサーエラー	○
5160	INV・THHSセンサー/回路異常	センサーエラー	○
5201	圧縮機吐出圧力センサー異常63ＨＳ	センサーエラー	○
5202	圧縮機吸入圧力センサー異常63ＬＳ	センサーエラー	○
5301	INV・IDCセンサ／回路異常	センサーエラー	○
5701	フロートスイッチ異常	センサーエラー	×
5801	電流センサー異常	空調機初期設定異常	×
6600	室外ユニット停電	通信異常	○
	アドレス2重定義エラー		
6602	伝送プロセッサーＨ／Ｗエラー	通信異常	○
6603	伝送ＢＵＳＹエラー	通信異常	○
6606	伝送プロセッサーとの通信エラー	通信異常	○
6607	ＡＣＫ無しエラー	通信異常	○
6608	応答フレーム無しエラー	通信異常	○
7101	能力コードエラー	空調機初期設定異常	×
7102	接続ユニット台数異常	空調機初期設定異常	×
7105	アドレス設定エラー	空調機初期設定異常	×
7108	室外ユニット誤設置	空調機初期設定異常	×

●空調機内の点検は、必ず空調機の電源を切ってから行ってください。
●チェックポイントの内容は、考えられる故障原因および遠隔リセットの可否を示しています。チェックポイントに従ってお調べになったうえで、動作不良の場合はお買い上げの販売店にご連絡ください。

■ワーニング画面表示の確認

ワーニング発生時、液晶コントロールパネルはワーニング画面に遷移します。下表を参照して表示されているワーニングコード、チェックポイントを確認してください。

【ワーニングコード一覧】

詳細ｺｰﾄﾞ	ワーニング画面表示
W1XX	吐出圧力垂下制御中
W2XX	吸入圧力垂下制御中
W3XX	吐出管温度垂下制御中
W9XX	センサー補完運転中
WAXX	リトライ運転中
WBXX	制御矛盾
WCXX	多点センサ位置不適

●ワーニングは故障ではありません。
●チェックポイントの内容は、考えられる故障原因および遠隔リセットの可否を示しています。

次の場合は故障ではありません。

音がする

●運転中や停止時に「シュルシュル」などと、運転条件等により音の長さや大きさが異なる音が出る場合がありますがこれはエアコン内部の冷媒が流れ運転が安定してくるとなくなる通常運転の冷媒音ですので問題ありません。安心してご使用ください。

上記確認をしたあとになお異常がある場合には、直ちに電源を切ってお近くのサービス窓口にご相談ください。

■サービスLED による故障判定

室内ユニット制御基板の自己診断スイッチ（SW1）とサービスLEDにより故障判定ができます。

【サービスLEDの表示方法】

サービスLED（LD1）

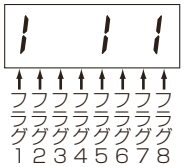
・エラーコード表示の場合

発生アドレスとエラーコードを交互に表示

例　室内ユニットアドレス1、吐出温度異常（コード1102）のとき

・フラグ表示の場合

例　圧縮機運転、SV3　ONのとき



【自己診断スイッチ(SW1)の設定とサービスLED(LD1)の表示内容】

No	SW1 1234567890	項　目	表示 LD1	LD2	LD3	LD4	LD5	LD6	LD7	LD8	備　考
0	0000000000	ゾーンNo.、号機	ゾーンNo.（1桁）ー号機（2桁）								
		点検表示 （OC含む）	0000 ～ 9999 （アドレスとエラーコード反転）								
1	1000000000	リレー出力表示1	COMP 運転中	クランク ケース ヒーター	SV1	SV2	SV3			常時 点灯	
2	0100000000	上位通信	劣化 診断	保護 制御	警報 運転					センサー 補完中	
3	1100000000										
4	0010000000										
5	1010000000	手元スイッチ	遠方	手元		運転	停止			試運転	
6	0110000000	外部信号 ［入力中の信号］			スノー センサー						
7	1110000000	運転表示		拘束 通電中	3分 再起動	圧縮機 運転中	異常 猶予中	異常			
8	0001000000	機外静圧テーブル	60	120	180	240	300				
9	1001000000	制御モード	定時 制御	停止	サーモ OFF	異常 停止	拘束 通電	冷媒 回収	凍結 防止		
10	0101000000	異常猶予中	高圧 異常1,2	低圧異常 低圧異常1	吐出温 度異常	過電流 保護		過電流 遮断	INV 異常	冷媒 過充てん	
11	1101000000		シェル下 異常	逆相 欠相 異常	室内 ファンコン 異常	室内 インナサーモ 異常	漏水 異常				
12	0011000000		TH1 異常				TH6 異常	TH7 異常			
13	1011000000		TH41 異常	TH21 異常	TH22 異常	TH23 異常	TH24 異常	THHS 異常			
14	0111000000		HPS 異常	LPS 異常	FS 異常					TH42 異常	
15	1111000000	異常猶予履歴	高圧 異常1,2	低圧異常 低圧異常1	吐出温 度異常	過電流 保護		過電流 遮断		冷媒 過充てん	
16	0000100000		シェル下 異常	逆相 欠相 異常	室内 ファンコン 異常	室内 インナサーモ 異常	漏水 異常				
17	1000100000		TH1 異常				TH6 異常	TH7 異常			
18	0100100000		TH41 異常	TH21 異常	TH22 異常	TH23 異常	TH24 異常	THHS 異常			
19	1100100000		HPS 異常	LPS 異常	FS 異常					TH42 異常	
20	0010100000										

No	SW1 1234567890	項　目	表　示 LD1 LD2 LD3 LD4 LD5 LD6 LD7 LD8	備　考
21	1010100000	異常履歴	0000～9999	
22	0110100000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常詳細	インバーター異常詳細（1～9）	
23	1110100000	異常履歴2	0000～9999	
24	0001100000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常詳細	インバーター異常詳細（1～9）	
25	1001100000	異常履歴3	0000～9999	
26	0101100000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常詳細	インバーター異常詳細（1～9）	
27	1101100000	異常履歴4	0000～9999	
28	0011100000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常詳細	インバーター異常詳細（1～9）	
29	1011100000	異常履歴5	0000～9999	
30	0111100000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常詳細	インバーター異常詳細（1～9）	
31	1111100000	異常履歴6	0000～9999	
32	0000010000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常詳細	インバーター異常詳細（1～9）	
33	1000010000	異常履歴7	0000～9999	
34	0100010000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常詳細	インバーター異常詳細（1～9）	
35	1100010000	異常履歴8	0000～9999	
36	0010010000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常詳細	インバーター異常詳細（1～9）	
37	1010010000	異常履歴9	0000～9999	
38	0110010000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常詳細	インバーター異常詳細（1～9）	
39	1110010000	異常履歴10	0000～9999	
40	0001010000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常詳細	インバーター異常詳細（1～9）	
41	1001010000	ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常猶予の種類 (No.12のｲﾝﾊﾞｰﾀｰ異常の詳細)	0000～9999	
42	0101010000			
43	1101010000	TH1データ	−99.9～999.9	
44	0011010000	TH31データ	↑	
45	1011010000	TH32データ	↑	
46	0111010000	TH33データ	↑	
47	1111010000	TH6データ	↑	
48	0000110000	TH7データ	↑	
49	1000110000	TH34データ	↑	
50	0100110000	TH35データ	↑	
51	1100110000	TH36データ	↑	
52	0010110000	TH21データ	↑	
53	1010110000	TH22データ	↑	

No	SW1	項　目	表　示								備　考
	1234567890		LD1	LD2	LD3	LD4	LD5	LD6	LD7	LD8	
54	0110110000	TH23データ	―99.9～999.9								
55	1110110000	TH24データ	↑								
56	0001110000	THHSデータ	↑								
57	1001110000	HPSデータ	↑								
58	0101110000	LPSデータ	↑								
59	1101110000	TH42データ	↑								
60	0011110000	Hz増減	△Hz＋	―	△Hz―	―	0～99				
61	1011110000	AK増減	△AK＋	―	△AK―	―	0～99				
62	0111110000	BK増減	△BK＋	―	△BK―	―	0～99				
63	1111110000	目標Tcとの差（Tcm―Tc）	低い-3K以下	低い-3～-2K	低い-2～-1K	安定域		高い1～2K	高い2～3K	高い3K以上	
64	0000001000	目標Teとの差（Tem―Te）	低い-3K以下	低い-3～-2K	低い-2～-1K	安定域		高い1～2K	高い2～3K	高い3K以上	
65	1000001000	Tc	―99.9～999.9								
66	0100001000	Te	↑								
67	1100001000	Tcm	0～9999								
68	0010001000	Tem	↑								
69	1010001000	Tc＊	↑								
70	0110001000	Te＊	↑								
71	1110001000	周波数	↑								
72	0001001000	INV出力周波数	↑								
73	1001001000	AK	↑								
74	0101001000	BK	↑								
75	1101001000		―								
76	0011001000		―								
77	1011001000	LEV2	0～9999								
78	0111001000	バランス運転データ	―99.9～999.9								
79	1111001000	室内ﾌｧﾝｲﾝﾊﾞｰﾀｰ周波数	0～9999								
80	0000101000	直流母線電流	―99.9～999.9								
81	1000101000	SHB	↑								
82	0100101000		―								
83	1100101000	SCO	―99.9～999.9								
84	0010101000		―								
85	1010101000	室内ユニットSH	―99.9～999.9								

No	SW1	項　目	表　示								備　考
	1234567890		LD1	LD2	LD3	LD4	LD5	LD6	LD7	LD8	
86	0110101000	AL	0～9999								
87	1110101000	OCアドレス	↑								
88	0001101000	ICアドレス	↑								
89	1001101000	COMP運転時間上4ｹﾀ	↑								
90	0101101000	下4ｹﾀ	↑								
91	1101101000	劣化診断	圧縮機劣化	膨張弁劣化	冷却能力劣化	室外熱交汚れ	ﾌｨﾙﾀｰ汚れ				
92	0011101000	保護制御	吐出圧力垂下	吸入圧力垂下	吐出管温度垂下				多点ｾﾝｻ位置不適		
93	1011101000	警報運転	ｻｰﾐｽﾀｰ補完	ﾘﾄﾗｲ運転	冷媒不足運転	過熱運転					
94	0111101000	運転パターン風量設定	通常	エンジン	バッテリー	吹出優先	吸込優先	通常	最低風量設定	風量固定	
95	1111101000	設定温度	吹出設定温度	―	吸込設定温度	―	0～99				
96	0000011000	MTTR上4ｹﾀ	0～9999								
97	1000011000	下4ｹﾀ	↑								
98	0100011000	補完中ｻｰﾐｽﾀｰ表示				TH5	TH6	TH7	TH8		
99	1100011000			TH21	TH22	TH23	TH24	THHS			
100	0010011000	TH1データ	―99.9～999.9								
101	1010011000	TH31データ	↑								
102	0110011000	TH32データ	↑								
103	1110011000	TH33データ	↑								
104	0001011000	TH6データ	↑								
105	1001011000	TH7データ	↑								
106	0101011000	TH34データ	↑								
107	1101011000	TH35データ	↑								
108	0011011000	TH36データ	↑								
109	1011011000	TH21データ	↑								
110	0111011000	TH22データ	↑								
111	1111011000	TH23データ	↑								
112	0000111000	TH24データ	↑								
113	1000111000	THHSデータ	↑								
114	0100111000	TH41データ	↑								
115	1100111000	TH42データ	↑								
116	0010111000										
117	1010111000										
118	0110111000										
119	1110111000										

6. 仕様

【仕様表】　PADY-P200NM-E1(下吹きタイプ)

機種名				室内ユニット	室外ユニット
機種形名				PADY−P200NM−E1	PVDY−P200NM−E1(-BS,-BSG)
形式				空冷式	
顕熱能力 ※1			kW	20.0	
消費電力 ※1			kW	7.16	
電流　※1			A	22.2	
室内ユニット	電　源			3相　200V　50／60Hz	
	外　装			マンセル　5Y8／1〈近似色〉	
	外　形　寸　法	高さ×幅×奥行	mm	1900×1195×600	
	圧　縮　機	形式		全密閉式スクロール形	
	室内側熱交換器			クロスフィンコイル式	
	送　風　機	形式		シロッコファン×1個	
		制御		インバーター	
		風量（50/60Hz）	m^3/min	52～112	
		機外静圧	Pa	120（最大300）	
		駆動方式		ダイレクト駆動	
	接　続　配　管	液管		φ12.7 C1220T	
		ガス管		φ19.05 C1220T	
室外ユニット	外　装			マンセル　5Y8／1〈近似色〉	
	外　形　寸　法	高さ×幅×奥行	mm	1880×1100×550	
	室外側熱交換器			クロスフィンコイル式	
	送　風　機	形式		プロペラファン×2個	
		風量（50/60Hz）	m^3/min	102	
		駆動方式		ダイレクト駆動	
	接　続　配　管	液管		φ12.7 C1220T	
		ガス管		φ19.05 C1220T	
保護装置 高圧／圧縮機／送風機／インバーター				圧力センサー、高圧圧力開閉器／過電流保護、過昇保護／ 過電流保護／過電流保護、過昇保護	
容量制御				圧縮機回転数制御	
冷媒制御				電子膨張弁	
冷媒配管	標準長さ		m	7.5	
	最大長さ		m	実配管長120	
	最大高低差		m	40	
冷　媒	冷媒名			R410A	
	充てん量		kg	室内：10.0、室外：3.0 ※2	
冷凍機油	冷媒機油			MEL32	
	充てん量		リットル	3	
法定冷凍トン				1.87	

※1.JIS　B8615-2の条件　＜室内側吸込空気乾球温度27.0℃/湿球温度19.0℃、室外側吸込空気乾球温度35.0℃＞
冷媒配管長7.5mで運転した場合の値です。
※2.工場出荷時、機器には配管長7.5m相当の冷媒（室内ユニット10.0kg、室外ユニット3.0kg）を充てんしています。
配管長が7.5m以上の場合は、下式に従った冷媒量を追加充てんしてください。（最大120m）

追加冷媒量＝（全配管長−7.5）×0.12（kg）（液管φ12.7，ガス管φ19.05）

ユニットの使用温度・湿度範囲を守ってください。
・範囲外で使用した場合、故障のおそれあり。

【室内ユニット主要部品構成表】

	名　称	素　材
		PADY-P200NM-E1
主　骨	――	台　枠：合金化溶融亜鉛メッキ鋼板　3.2T ポリエステル粉体塗装　黒（マンセルN1.5）
外　装	――	パネル：合金化溶融亜鉛メッキ鋼板　1.0T ポリエステル粉体塗装　アイボリー（マンセル5Y 8/1） 柱：溶融亜鉛メッキ鋼板　2.3T
圧縮機	圧縮機(全密閉式スクロール形)	――
送風機	ファン (両吸込形シロッコファン、電動機直結式)	溶融亜鉛メッキ鋼板　1.0T
	ケーシング	溶融亜鉛メッキ鋼板　1.2T
電動機	モーター (3相200V 6極)	フレーム　FC150
		シャフト　S35C
熱交換器	チューブ	C1220T φ9.52×0.30T
	フィン	アルミ（ｱｸﾘﾙ樹脂ｺｰﾃｨﾝｸﾞ）
	ヘッダ	C1220T φ25.4×1.2T
	側　板	溶融亜鉛メッキ鋼板　1.2T
ドレンパン	蒸発器用ドレンパン	SUS304　1.0T
	エマージェンシードレンパン	合金化溶融亜鉛メッキ鋼板　1.2T エポキシ樹脂塗装　ポリエステル粉体塗装　アイボリー（マンセル5Y 8/1）
フィルター	フィルター	PPハニカム
機内配管	冷媒配管	りん脱酸銅継目無管
断熱材	断熱材	ポリエチレンフォーム　15T

【室外ユニット主要部品構成表】

部　位		素　材	表面処理	標準	耐塩害(-BS)	耐重塩害(-BSG)
台枠		合金化溶融亜鉛メッキ鋼板 2.3T	粉体塗装	○	○	○
パネル類		合金化溶融亜鉛メッキ鋼板 0.8Tまたは1.0T	薄膜粉体塗装	○	―	―
			粉体塗装	―	○	○
ファン	プロペラファン	PP樹脂	―	○	○	○
	ファンガード	鉄線	PEコーティング	○	○	○
	ベルマウス	PP樹脂	―	○	○	○
モーター	フレーム	アルミニウム	―	○	○	○
	シャフト	S45C	青ニス入りクリアラッカー	○	○	○
熱交換器	チューブ	銅 φ9.52×0.30T	―	○	―	―
			アミノ・アルキド樹脂	―	○	○
	フィン	アルミニウム 0.1T ＋セルロース・ウレタン系樹脂（プレコート）	―	○	―	―
			アミノ・アルキド樹脂	―	○	○
	ヘッダ	銅 φ19.05またはφ12.7	―	○	○	○
	側板	溶融アルミ・亜鉛合金メッキ鋼板 1.2T	―	○	―	―
			アミノ・アルキド樹脂	―	○	○
	ヘッダカバー	溶融亜鉛メッキ鋼板 1.0T	―	○	―	―
		合金化溶融亜鉛メッキ鋼板 1.0T	粉体塗装	―	○	○
制御箱		溶融亜鉛メッキ鋼板 1.0T	―	○	○	―
		合金化溶融亜鉛メッキ鋼板 1.0T	粉体塗装	―	―	○
冷媒回路	銅管	銅管	―	○	○	○
	ロウ付部	リンドウロー	―	○	○	○
ネジ		ネジ用鋼材	亜鉛・ニッケル合金＋ジオメット処理	○	○	○

7. 保証とアフターサービス

保証書（別添付）

■保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店からお受取りください。
■内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。

保証期間：お買い上げ日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間は

■エアコンの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後、９年間です。この期間は、経済産業省の指導によるものです。
■性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは

■「故障かな？」と思ったら（24ページ）に従ってお調べください。
・なお、不具合があるときは、電源スイッチを切り、必ず制御盤側の漏電遮断器を切ってから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■保証期間中は
修理に際しては、保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

■修理料金は
○技術料＋部品代（出張料）などで構成されています。

【ご連絡いただきたい内容】
1．品　名
2．形　名
3．お買い上げ日
4．故障の状況　　できるだけ詳しく（リモコンのエラー表示記号など）
5.ご住所　　付近の目印なども
6.お名前・電話番号

製品の形名・製造番号は、本体に貼付してある製品名板にも記載されています。
サービスマンがお伺いした折には、必ず保証書をお示し願います。

アフターサービスご契約のおすすめ

■当社指定のサービス会社と保守契約（有料）いただければ、専門のサービスマンがお客様に代わって保守点検を致します。万一の故障時も早期に発見し適切な処置を行うことができます。

様式1　冷媒漏えい点検記録簿（汎用版）　　年　月　日 ～　年　月　日

管理番号	

施設所有者				設備製造者	
施設名称		系統名		設置年月日	
施設所在地		電話		使用機器	型式 / 製品区分
運転管理責任者		電話			製番 / 設置方式：現地施工
点検事業者 会社名		責任者			用途：空調用 / 検知装置
点検事業者 所在地		電話		冷媒量（kg）	合計充填量 / 合計回収量 / 合計排出量 / 排出係数（%）
使用冷媒	R410A	初期充填量（kg）		点検周期	基準 / 実績（月）

作業年月日	点検理由	充填量（kg）	回収量（kg）	監視・検知手段（最終）	センサー型式	センサー感度	資格者名	資格者登録No.	ﾁｪｯｸﾘｽﾄNo.	確認者

企画開発　　株式会社 NTTファシリティーズ

設計・製造　三菱電機株式会社

●JRA* GL-14「冷凍空調機器の冷媒漏えい防止ガイドライン」に基づく冷媒漏えい点検のお願い

本製品を所有されているお客様に、製品の性能を維持して頂くために、また、冷媒フロン類を適切に管理して頂くために、定期的な冷媒漏えい点検（保守契約などによる、遠隔からの冷媒漏えいの確認などの、総合的なサービスも含む）（いずれも有償）をお願いいたします。
定期的な漏えい点検では、漏えい点検資格者によって「漏えい点検記録簿」へ、機器を設置した時から廃棄する時までの全ての点検記録が記載されますので、お客様による記載内容の確認とその管理（管理委託を含む）をお願いいたします。
なお、詳細は下記のサイトをご覧ください。*JRA:社団法人 日本冷凍空調工業会
・JRA GL-14 について、http://www.jraia.or.jp/info/gl-14/
・フロン漏えい点検制度について、 https://www.jarac.or.jp/business/cfc_leak/

愛情点検

●長年ご使用のエアコンの点検を！

エアコン補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後９年です。

ご使用の際、このようなことはありませんか？

- ●運転音が異常に大きくなる。
- ●室内ユニットから水が漏れる。
- ●電源が頻繁に落ちる。
- ●その他の異常や故障がある。

ご使用中止　故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

後日のために記入しておくと便利です。

お買い上げ店名　　電話

お買い上げ(据付)日　　年　　月　　日

三菱電機株式会社

本社　〒100-8310　東京都千代田区丸の内2-7-3（東京ビル）
冷熱システム製作所　〒640-8686　和歌山市手平6-5-66

WT06457X04